

1 週間目

あら、おはよう。気分はどうかしら？」

私のおっぱい吸いはじめて一週間目ね、だいぶ慣れたかしら♡」

どうしたの、目を丸くして……あ、この姿？ 悪の組織の人に改造してもらった本当の私の姿なの
ふふ、もう隠す必要もないわよね。どう、とっても素敵でしょ」

アナタに送ってもらったセーターのデザインをもとに作ってもらったのよ」

ぴっちり体のライン出ちゃってるけどおっぱいの映えるラインがとっても素敵でしょ？」

もちろん人間スタイルにもなれるけど、やっぱり、この姿が落ち着くの♡」

あ、アナタのおちんちん勃起しちゃってる」

お姉ちゃんのこのドスケベ怪人姿で、大きくしてくれてるのね。それって私の姿が、アナタ好みって
ことよね。だったら、うれしい」

それに今からアナタの正義の味方のエネルギーを抜くつもりだったもの。いいのよ、楽にして、全部
お姉ちゃんにゆだねて頂戴♡」

仰向けのままでいて……お姉ちゃんから、襲っちゃうから」

あら、震えてるの？ ふふふ、昔は怖がりで雷の夜とかにここで眠れないアナタを抱きしめてあげ
たっけ？ ほらこんな感じでぎゅーって。お姉ちゃんが抱きしめて癒してあげる♪」

大丈夫、怪人になった私の匂いをくんくん嗅いで♡ そうすれば、ほら♡ 体の力が抜けて、とっ
ても素直になれるのよ♡ そうして、すんすん匂い、嗅がれるの、恥ずかしいけどアナタのためだか
ら、我慢しちゃう♡」

ぎゅーっ。ほら、だんだん、体の力が抜けて、リラククスしてきたでしょ？」

「あれー。一か所だけ逆に硬くなっちゃってる。くすす、我慢できなくなっちゃったのかな？ いいのよ。お姉ちゃんの今の体で興奮してくれてるなんて、うれしい♡ 今から、生おまんこで、吸い取ってあげる♡」

勃起チンポを、お姉ちゃんの中に、ん、んふ、呑みこんで……全部、入っちゃったあ♡」

あふ、あふ、中でまた大きくなって。いいの。いいのよ。おつきくなって。お姉ちゃんのお肉気持ちいいもんね。なんにもいけないことじゃないの」

んんッ、んんッ♡」

お姉ちゃんのおまんこで、いつもみたいにおちんちんから精液射精して、気持ちよくなるうね。ん、んふ、んふう、声も出せないぐらい良くなっちゃってるの？ もう、我慢しなくてもいいのよ」

出したくなったら、びゅっびゅして、中に出してッ♡」

「このまま腰を振りながらぎゅーっ、抱き締めちゃうわね。お姉ちゃんのおっぱいのやわやわしてるのいっぱい感じてね。あ、あ、あ、あんッ♡」

「アナタも腰を動かして、お姉ちゃんの中を感じて♡ 恥ずかしくならなくていいの……あん、あんッ、そうよ奥まで突いて、出して♡ 熱々のザーメン、中に、来て、あーッ♡♡」

ほら、まだ出せるわよね。安心して、何回出しても、何十回出してもお姉ちゃんは受けとめてあげられるのよ。強い怪人さんお姉ちゃんだもの♡」

本当に改造されて、アナタから正義の力を奪うことができ、よかった♡ アナタはいつも戦いでボロボロ、お姉ちゃん、本当に心配だったの、が張り裂けそう、アナタを見ていられなかった」

でも、もう大丈夫」

「アナタが正義の味方さんじゃなくなれば、もう戦いに行く必要はないの」

「これからはお姉ちゃんがずっと一緒にいて、アナタを守ってあげる」
あふ、あふう、おちんちんの先がヒクヒクして、また出しちゃうのね。いいわ、ほら、出して♡ お姉ちゃんにぷりっぷりの濃厚なザーメン、出してっ、ああーっ♡」

あ、ああ……おまんこの奥、弟くんのせーしで、いっぱい♡」
えらいえらい。お姉ちゃんのおまんこに精液いっぱい出させてえらい。もっといっぱい出しちゃいましょうね」

わ、ん、んん♡ 私が腰を振って、おちんちんからザーメンミルクを生搾り♡ どうしたの？ お姉ちゃんを悲しい目で見て♡」 もう、お姉ちゃんは昔のままよ。アナタが一番大切で、アナタを一番思ってるお姉ちゃんだよ？」

だから、弟のアナタが、姉とセックスするのは当たり前のことなの。今まで、みんなのために一生懸命戦ったんだから、もう肩の荷を下ろしていいのよ。正義の味方さんは、他の人にやってもらえばいい♡」

もっともっと、お姉ちゃんが精液搾り取って、ヒーローの使命なんて忘れさせてあげる」

お姉ちゃんに任せておけば、何の心配もないのよ。アナタは、何にも考えなくていいの。お射精いっぱいして、気持ち良くなってる♡ そしたらご褒美にお姉ちゃんの美味しい洗脳ミルクをいっぱい飲ませてあげる。いっぱい出して飲んで♡」

お姉ちゃんのこと聞いて、素直ないい子になっちゃおうね♡ あ、あん、中出し♡ もっとして♡ 熱々のせーしミルクっ♡ びゅぐびゅぐ出してえっ♡ お姉ちゃんの奥に♡ あ、ああ♡ 来る、来る♡」

おまんこの子種汁、もっと出してっ♡」

おびゅぐびゅぐ、射精して♡」

わう、んうっ、いっぱい出してっ♡」

「アナタは真っ白になるの。全部吐き出して気持ちよくとろけて♡…あ、ああ、あーッ♡ 出してーッ♡」

「お、お姉ちゃんも、い、イグ、イグうッ♡ 頭真っ白になってイクのおおっっ！！ んっはあぁーッ♡♡」

「わふ、いっっぱい、お射精できて、えらい♡」

「わふ、おまんこから、おちんちん抜いちやうわね♡ 精液と愛液でおちんちん、ドロドロ。とっても美味しそう。あとでおっぱいミルクいっぱい飲ませてあげるから、お姉ちゃんにも、アナタのえっちなミルクご馳走して♡」

「お口でおちんちん、啜えて、れろれろしやぶっちやうわね。んれろ、れろお、先っぽから、タマタママで、んれろ、じゅるれろ、れろお、いっぱい舐めなめしひやうから、あふ、弟チンポ、大好き♡」
「わふう、すぐに大きくなつれ、先っぽれろしたら、先走りが、出ひやってるわね、れろれる、れろお、れろれろッ、じゅるるッ♡いっぱい搾り取ってあげたのにもう復活するなんて…」

「えらいえらい。ふふふ。いいのよ、お姉ちゃんでおちんちんおっきくして、ナニも考えられなくなるべらい射精していいの」

「それじゃあ、エッチなことを我慢できずにすぐおっきくなつちやうおちんちん君にはご褒美にー♡ お姉ちゃんのところからお口で搾り取ってあげちやう♡ おちんちんを口の中で、ほおばったまま、ペロの上で、れろれお、ころがひて、んちゅば、ちゅばッ♡ どうかひら、お姉ちゃんを感じてくれているかひっっ、んむう、んむう♡」

「口を窄めて、頭を上下に、動かして、んちゅぶ、ちゅぶちゅばッ、ちゅばちゅばちゅばッ♡ んちゅぶッ、ちゅぶぶ、ちゅぶッ、んちゅぶちゅぶッ♡」

んふふ、お姉ちゃんの舌の上で震えて、もう出そうなの？」

ほら、だ、出して、お口にザーメン、いっぱい出しれーッ♡ ぢゅばぢゅばぢゅば、んぢゅるるうーッ♡ んぢゅるうーッ♡ あふうう、中にぎとぎとの濃いせーし、いっぱい出されれえ、ん、んんんっ！っ？ んんんん♡ んんんん♡♡！！！！」

あふう、いっぱい精液、貰っちゃった♡ ほら、見て…れるおお…お姉ちゃんのペロにザーメンたっぷり絡んでるの、見えちゃってるかな♡」

「これを、んんッ、ごくんッ、ぜーんぶ、飲んじゃった♡ んふふ、弟くんザーメンの、とろみと甘みがたまらない♡ 今度はお返しに、お姉ちゃんのミルクいっぱいご馳走して上げる。んふふ」